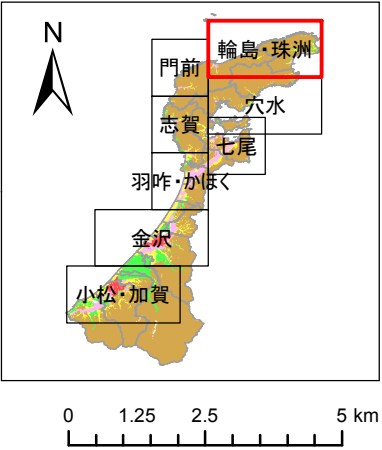
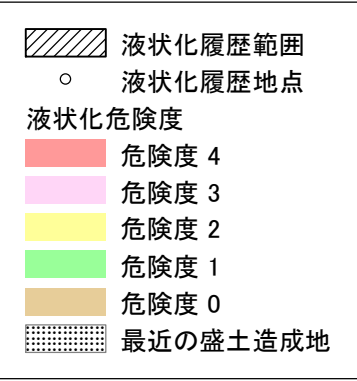


輪島・珠洲地域

液状化しやすいマップ



本地域は能登半島の北部～北東部に位置します。地形は主に山地と丘陵地からなり、低地は小規模なものが多くなっています。北部の外浦海岸沿いは岩盤で構成される急斜面が発達し、局所的に大川浜を代表とする砂浜が分布しています。また輪島市街地を流れる河原田川と鳳至川下流には幅の広い谷底平野と海岸平野が分布し、締め固まっていない砂層と粘土層で構成されているため液状化の可能性のある範囲と想定されます。

東部の内浦海岸では海岸沿いに砂丘が発達し、その背後に海岸平野が位置します。海岸平野は締め固まっていない砂層と軟弱な粘土層から構成され、1993年に発生した能登半島沖地震による液状化履歴も認められることから、液状化の可能性のある範囲と想定されます。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図) 石川県発行(1982～2006)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011) 日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松、2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

